

令和4年5月31日
農推第1210-2号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

雨の多いこの時期は病害が発生しやすくなります。気象情報に注意して予防的防除に努めましょう。

発生に注意！（6月）

水稻

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）

- ・ ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落としましょう。
- ・ 水深4cm以下では自由に移動できないので、田植え後の浅水管理が有効です。
- ・ 田植え直後にスクミノン、スクミンペイト3、ジャンボたにしくんなどを散布しましょう。スクミノン、ジャンボたにしくんを使用後は7日間湛水状態にし、かけ流しや落水はしないようにしましょう。

ぶどう

べと病

- ・ 露地の多発ほ場では、梅雨の晴れ間の予防が重要です。発生を認めたらリドミルゴールドMZ、ゾーベッククエニベル、アリエッティ水和剤などを散布しましょう。
- ・ 農薬を散布する際は、薬害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行いましょう。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

クビアカツヤカミキリ

- ・ 幼虫は、幹や枝から中華麵〜うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出します。フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ペニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫しましょう。

トマト

ハモグリバエ類

- ・ マメハモグリバエ、トマトハモグリバエなどが発生します
- ・ 摘葉した葉はほ場外に持ち出し処分し、ベネビアOD、アフーム乳剤、ディアナSCなどを散布しましょう。

野菜類・花き類

ハスモンヨトウ

- ・ なす科野菜、さといもなど多くの作物を加害します。
- ・ 発生を認めたら、アディオン乳剤（さといも、ずいき、オクラ、豆類（未成熟）など）、ディアナSC（かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど）、ユテツフロアブル（ずいき、さといも、オクラ、花き類など）、プレバソフロアブル5（さといも、なす、ピーマン、キャベツなど）などを散布しましょう。



クビアカツヤカミキリ成虫



べと病（葉裏の状態）*



ハスモンヨトウ *

次の情報は6月下旬にお知らせします。

©「防除指針」 <http://www.jpnn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫の発生予報（6月）

水稻

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稻			いもち病		
			縞葉枯病（ヒメトビウンカ）		
	ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）（発生に注意）				

果樹

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			灰色かび病		
				べと病	
			チャノキイロアザミウマ		
			クワゴマダラヒトリ		
もも			せん孔細菌病		
			シンクイムシ類		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ（発生に注意）				
みかん			黒点病		
			ミカンハダニ		
		カイガラムシ類			
いちじく			アザミウマ類		
果樹類全般			果樹カメムシ類		

野菜

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			灰色かび病		
			うどんこ病		
		アザミウマ類 葉かび病・すすかび病			
トマト			灰色かび病		
				ハモグリバエ類	

野菜類・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜・花き類		シロイチモジヨトウ			
				ハスモンヨトウ	
			コナガ		
		アブラムシ類			
			コナジラミ類		

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jpnn.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

水稲

種子消毒、育苗

種子消毒

- ◆ 薬剤を使用する場合は、テクリードCフロアブル、エコホープDJなどで消毒する。消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。
- ◆ 温湯消毒の場合は、60℃の湯に10分間浸漬する。温度ムラが出ないように、時々種子袋を揺する。引き上げ後、直ちに流水中で冷やす。

育苗準備

- ◆ 育苗箱などの資材は使用前にケミクロンG、イチバンなどで消毒する。

もみ枯細菌病（苗腐敗症）



苗腐敗の症状



上段：もみの症状
下段：玄米の症状 ※

防除のポイント

- ◆ 特に出芽時の温度が高い場合に発病しやすいので、30℃以下になるよう育苗時の温度管理に注意する。

苗立枯病



フザリウム菌による苗立枯れ *

防除のポイント

- ◆ 育苗箱での発生を認めたら、ダコニール1000（リゾプス菌）、タチガレエースM液剤（ピシウム菌、フザリウム菌）、パリダシン液剤5（白絹病菌、リゾクトニア菌）、ベンレート水和剤（トリコデルマ菌、フザリウム菌）などをかん注する。
- ◆ 発芽後の苗がしおれ、黄化枯死する（フザリウム菌）。根が水浸状になり褐変し、しおれて枯れる（ピシウム菌）。灰白色のカビが生え、苗の不揃い、枯死が見られる（リゾプス菌）。床土にはじめ白いカビが生え、やがて黄緑色になり発芽障害となる（トリコデルマ菌）。

水稻

いもち病



葉いもち

特徴

- ◆ 低温多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に助長される。

防除のポイント

- ◆ 発生が予想される場合、ビームプリンス粒剤やサンスパイク箱粒剤、ブイゲットフェルテラゼクサロンL粒剤などの箱施用剤を田植え時に処理する。
- ◆ いもち病の常発ほ場で箱施用剤を使用できない場合は、発生前にオリゼメート粒剤、コラトップ粒剤5、ゴウケツ粒剤、サンブラス粒剤などを散布する。
- ◆ 発生を認めたらブラシンフロアブルなどを散布する。

縞葉枯病（ヒメトビウンカ）



縞葉枯病発病株



ヒメトビウンカ【成虫】※

特徴

- ◆ 縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介される。
- ◆ り病株では、新葉が垂れ下がって枯死する（ゆうれい症状）。

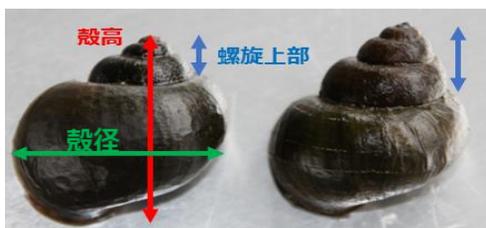
防除のポイント

- ◆ ヒメトビウンカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。
- ◆ 箱施用剤等により、ヒメトビウンカの防除を徹底する。

ジャンボタニシ（スクミリングガイ）



ジャンボタニシ
(スクミリングガイ)



ジャンボタニシ

マルタニシ



ヒメタニシ

注) 当該項目「ジャンボタニシ（スクミリングガイ）」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

特徴

- ◆ 成貝の殻高は2～7 cm程度。
- ◆ 他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである（上部写真参考）。
- ◆ 主に田植え直後（約20日後まで）の苗が食害され、欠株になる。

防除のポイント

- ◆ ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とす。
- ◆ 水深4 cm以下では自由に移動できないので、田植え後の浅水管理が有効。
- ◆ 田植え直後にスクミンベイト3、スクミノン、ジャンボたにしくんなどを散布する。

注) スクミノン、ジャンボたにしくん使用後は7日間湛水状態にし、かけ流しや落水はしない。



卵塊

カラー技術資料「ジャンボタニシ（スクミリングガイ）から稲を守りましょう！」についてもご参照ください。
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

果樹

ぶどう

灰色かび病



灰色かび病の症状

特徴

- ◆ 多湿条件で発生が多くなる。
- ◆ 孢子（分生孢子）が雨や風によって飛散し、傷口などから感染する。

防除のポイント

- ◆ 適切に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生を認めたら、ゲッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤、オンリーワンフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。系統については病害虫防除グループのホームページにある「防除指針」等を参考にする。

べと病



べと病の葉裏の症状

特徴

- ◆ 梅雨時期など、雨が長く続くとまん延しやすい。

防除のポイント

- ◆ 露地の多発ほ場では梅雨の晴れ間の予防が重要である。
- ◆ 発生を認めたらリドミルゴールドMZ、ゾーベックエニベル、アリエッティ水和剤などを散布する。
- ◆ 農薬を散布する際に、薬害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。

チャノキイロアザミウマ



被害果*

特徴

- ◆ 巨峰、シャインマスカット等の大粒系品種で被害が大きいため注意する。

防除のポイント

- ◆ ディアナWDG、エクシレルSE、モスピラン顆粒水溶剤などを散布する。

注) エクシレルSEを幼果期以降に使用する場合は、果粉溶脱を生じるおそれがあるので、袋かけ以降に使用する。また、無袋栽培（傘掛けを含む）には使用しない。

モスピラン顆粒水溶剤は、果粉の溶脱のおそれがあるので幼果期から果粒肥大期の散布を避け、新梢伸長期から落花期及び袋かけ以降に使用する。

- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。系統については病害虫防除グループのホームページにある「防除指針」等を参考にする。

クワゴマダラヒトリ



クワゴマダラヒトリの幼虫※

特徴

- ◆ 成虫は年1回、8～9月にアカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウなどに産卵する。
- ◆ 主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で越冬する。越冬後、3月に降に幼虫が移動しブドウの新梢や葉を食害する。

防除のポイント

- ◆ 初期に新梢の生長点に加害されると被害が大きいため、初期防除に努める。
- ◆ 発生を認めたら、オリオン水和剤40、フェニックスフロアブル、エクシレルSEなどを散布する。

もも

せん孔細菌病



せん孔細菌病の被害葉

特徴

- ◆ 降雨、強風によって発生が助長される。
- ◆ 果実は幼果～未熟果期に感染しやすい。

防除のポイント

- ◆ 被害葉や被害果、被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、バリダシン液剤5、スターナ水和剤などを散布する。
- ◆ 薬剤防除は多発してからでは効果が劣るので、予防散布を心がける。

令和4年3月22日発出の防除情報「せん孔細菌病に注意！」についてもご参照ください。
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyoyouhou/R0403senkousaikin.pdf>

シンクイムシ類



被害果

特徴

- ◆ ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

防除のポイント

- ◆ 被害果や被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 産卵期から幼虫加害期（5月上旬～7月下旬）にノーモルト乳剤、アディオン乳剤、サムコルフロアブル10、ディアナWDGなどを散布する。

バラ科果樹（もも、うめ、すもも等）

クビアカツヤカミキリ



特徴

- ◆ 成虫は体長2～4 cm。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆ 幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出す。
- ◆ フラスが出ている穴の周辺に幼虫がいる可能性が高い。
- ◆ 若齢幼虫はうどんよりも細い（中華麺状）フラスを出すことがあります、この時期の防除が効果的。



被害枝



ネット被覆（さくら）

防除のポイント

- ◆ フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。ネットは4mm目合いのものを、高さ2m程度まで二重に口をしっかりと巻く。ネットを樹幹に密着させると成虫がネットを噛み切ることがあるので、樹幹との間に余裕を持たせる。
- ◆ ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだいハンマーなどで殺虫する。
- ◆ 伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で二重に覆い、成虫が拡散することを防ぐ。
- ◆ フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。
- ◆ 発生地域では、成虫の発生時期（6～8月）に、モスピラン顆粒水溶剤など成虫対象の登録薬剤を散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

温州みかん

黒点病



被害果

特徴

- ◆ 梅雨時期など雨が連続すると発生が増加する。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期にジマンダイセン（ペンコゼブ）水和剤、エムダイファー水和剤などを散布する。降雨が多い場合には、散布回数を増やす。
 - ◆ ジマンダイセン（ペンコゼブ）水和剤、エムダイファー水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。
- 注）かんきつ（みかんを除く）では、上記3剤とも使用時期が「収穫90日前まで」なので使用時に注意する。

ミカンハダニ



被害葉

特徴

- ◆ 梅雨明け後に発生が多くなる。

防除のポイント

- ◆ 6月中～下旬に、ハーベストオイル、トモノールSなどのマシン油剤を散布する。
- ◆ 発生を認めたら、ダニヨングフロアブル、スターマイトプラスフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。系統については病害虫防除グループのホームページにある「防除指針」等を参考にする。
- ◆ 薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

カイガラムシ類



ナシマルカイガラムシの被害

特徴

- ◆ ナシマルカイガラムシ（サンホーゼカイガラムシ）などが加害する。

防除のポイント

- ◆ 幼虫発生期にエルサン乳剤、モスピラン顆粒水溶剤、トランスフォームフロアブルなどを散布する。

幼虫発生期

ナシマルカイガラムシ：5月下旬～6月中旬、8月上旬～中旬
ヤノネカイガラムシ：5月下旬～6月中旬、8月中旬～9月下旬

いちじく

アザミウマ類



被害果

特徴

- ◆ 果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。

防除のポイント

- ◆ 成虫発生期（5月下～6月中旬）にスピノエース顆粒水和剤、ディアナWDG、コテツフロアブル（ヒラズハナアザミウマ）などを散布する。
- ◆ 果実の直径が2.5cmになったときの散布が有効である。
- ◆ ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。
- ◆ 光反射シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。系統については病害虫防除グループのホームページにある「防除指針」等を参考にする。

果樹類全般

※作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ※

特徴

- ◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。

防除のポイント

- ◆ 園全体を目合い4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆ 発生を認めたら、アディオソル乳剤（かんきつ、もも、かきなど）、スタークル（アルパリン）顆粒水溶剤（かんきつ、もも、かきなど）などを散布する。

野菜

なす

うどんこ病



葉の病斑

特徴

- ◆ 窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、パンチョT F顆粒水和剤、スコア顆粒水和剤、プロパティフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。系統については病害虫防除グループのホームページにある「防除指針」等を参考にする。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

灰色かび病



灰色かび病症状*

特徴

- ◆ 咲き終わった花卉や幼果に感染しやすい。
- ◆ 20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。

防除のポイント

- ◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 開花後の花卉をとり、病原菌の侵入を防ぐとともに被害葉や被害果を速やかに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 発生が見込まれる時期にベルコート水和剤等を、発生を認めたらセイビアフロアブル20、ゲッター水和剤などを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。系統については病害虫防除グループのホームページにある「防除指針」等を参考にする。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ 苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、アフーム乳剤、ファインセーブフロアブル、モベントフロアブル、ダブルシューターSEなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。系統については病害虫防除グループのホームページにある「防除指針」等を参考にする。
- ◆ 雑草はアザミウマ類の増殖場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

トマト・ミニトマト（施設栽培）

葉かび病・すすかび病

すすかび病被害葉※
表(左) 裏(右)※

特徴

- ◆ 日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆ 近年増加傾向にある。すすかび病は葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆ 被害茎葉は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 発生が見込まれる時期にダコニール1000やベルコートフロアブルを、発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。系統については病害虫防除グループのホームページにある「防除指針」等を参考にする。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jpnn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

ハモグリバエ類



ハモグリバエ類被害葉

特徴

- ◆ マメハモグリバエ、トマトハモグリバエなどが発生する。

防除のポイント

- ◆ 摘葉した被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ ベネビアOD、アフーム乳剤などを散布する。

野菜類・花き類

※作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

シロイチモジヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ ねぎでの発生が多いが、マメ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、グレーシア乳剤（ねぎなど）、ベネビアOD（ねぎ）、ロムダンフロアブル（ねぎ、花き類・観葉植物）などを散布する。

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ なす科野菜、さといもなど多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、アディオソル乳剤（さといも、ずいき、オクラ、豆類（未成熟）など）、ディアナSC（かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど）、コテツフロアブル（ずいき、さといも、オクラ、花き類など）、プレバソソフロアブル5（さといも、なす、ピーマン、キャベツなど）などを散布する。

ヨトウムシ類については「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。

http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_1.pdf

コナガ



成虫 ※



幼虫 ※

特徴

- ◆ 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆ 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆ 同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆ 発生を認めたら、アクセルフロアブル（非結球あぶらな科葉菜類など）、ディアナSC（非結球あぶらな科葉菜類など）などを散布する。

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、しゅんぎくなど）、アドマイヤー顆粒水和水剤（なす、トマト、ミニトマトなど）、コルト顆粒水和水剤（なす、トマト、ミニトマト、花き類・観葉植物など）などを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。系統については病害虫防除グループのホームページにある「防除指針」等を参考にする。

コナジラミ類



タバココナジラミ ※



トマト黄化葉巻病発症株

特徴

- ◆ トマトでは、吸汁による果実の着色不良のほか、TYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬する。キュウリでは、CCYV（ウリ類退緑黄化ウイルス）を伝搬する。

防除のポイント

- ◆ ウイルスに対する有効な薬剤は無いため、媒介昆虫であるタバココナジラミの早期発見・早期防除に努め、発生初期に薬剤散布を実施する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ ほ場周辺の雑草除去を徹底する。
- ◆ グレーシア乳剤（トマト、ミニトマト、なす、きゅうりなど）、ベネビアOD（トマト、ミニトマト、きゅうりなど）、コロマイト乳剤（トマト、ミニトマト、なす、きゅうりなど）などを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。